



CHARTERED IN
NOVEMBER 21, 1955

THE SERVICE CLUB OF YMCA
THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S

2016年11月

札幌クラブ THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
T.064-0811
011(561)5217

キックオフ・YMCAサービス・SF・RBM (Roll Back Malaria)

— 主 題 —

国際会長
アジア会長
東日本区理事
北海道部部长
札幌クラブ会長

「Our future Begins Today」
「Respect Y's Movement」
「明日に向かって 今日働こう」
「視点を変えて見てみよう」
「親しくそして語り合う例会を」

Joan Wilson (カナダ)
Tung Ming Hsiao (台湾)
利根川 恵子 (川越)
山本 雅之 (十勝)
宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員
会 長 宮崎 善昭
書 記 中田 千鶴
会 計 秋葉 聡志
直前会長 宮崎 善昭

今月の聖句

驚いてはならない。時が来ると、墓の中にいる者は皆、人の子の声を聞き、善を行った者は復活して命を受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来るのだ。 ヨハネによる福音書 5章28～29節

巻頭言

v

思い立ったら小樽へ

札幌クラブ副会長 伏木 康

札幌から西へ 30 km弱、JR で1時間もかかりません。長男が銭函にある小樽高等支援学校に通っていた頃は、頻繁に訪れました。

1年前、NHK のプラタモリでも取り上げられましたが、海と山があり、札幌より繁栄していた時代は、日本銀行が支店を設けていた北海道では歴史のある街です。そこで、私の小樽のお薦めを5つご紹介します。

1. 北海道ワインの初しぼり

朝里川温泉にワイナリーがあり、毎年この季節(11月頃)に収穫されたばかりの新鮮な葡萄から作られる生ワインが発売されます。数種類のワインの中で、私の一押しは香り豊かな「ナイヤガラ&ポートランド」です。



写真左： 小樽近郊はワイン・ウイスキーの聖地です。ニッカウイスキーの産地余市はすぐお隣です。

写真右： 雪あかりの小樽運河。とてもロマンチック、メルヘンチックです。

2. 小樽雪あかりの路

2月、札幌で雪祭りが開催されている頃、市内各所でキャンドルに灯りがともります。海外の若者に特に人気があり、運河沿いの浮き玉キャンドルも必見です。

3. 旧高橋倉庫ステンドグラス美術館

ニトリ小樽芸術村の中で今年の夏に先行オープンした施設、見応え十分です。

4. 北一ホール

石油ランプの匂いが魅力で、よくここで珈琲を飲みます。

5. 旧岡崎家能舞台

運河沿いに歴史的建造物が多い小樽で、坂の上にあります。

石原裕次郎記念館が老朽化により、来年8月閉館と発表されましたが、一方で、毎年、old 小樽の再発見、new 小樽の新発見があります。皆さんも是非思い立ったら小樽へ



2016年7月例会

在籍会員 11名

例会出席 6名

メネット 0名

メーキアアップ 0名

出席報告

ゲスト 2名

ビジター 1名

出席者合計 9名

出席率 55%

第29回東日本ユースボランティアリーダーズフォーラム報告

北海道 YMCA ユースボランティアリーダー(キスケリーダー) 船田沙紀(北翔大学2年)

9月9日～11日に東京 YMCA 山中湖センターで、「第29回東日本ユースボランティアリーダーズフォーラム」が開催されました。『今、リーダーに求められること』をテーマに、3日間で多くの学びを得ました。

基調講演から

「関わること・遊ぶこと・悩むこと」をテーマに、元YMCAでリーダーをされていた青山鉄兵さんによる基調講演が行われました。

私にとって、今回の基調講演はYMCAへの活動に対しての考えが180°変わるきっかけとなった時間になりました。メンバーが本当に求めているリーダーとは何かを改めて考える機会となり、活動の中で行うプログラムを初め、手遊びや歌一つ一つにそれを行う自分なりの意味や目的を持ち、メンバーと関わるのが大切であることに気付くことが出来ました。また、活動全体がリーダーの自己満足にならないよう、活動の一つ一つに疑問を持ち、メンバーの視線を大切にすることを意識していきたいと感じました。



グループワークを通して

1グループ5～6人に分かれ、テーマをもとに朝から夜中を通り越して明け方まで、本当に色々なことを話しました。うまく言葉に出来なくても想いを伝えよう、言葉や文字にして気持ちや想いを表現しようとみんな必死だったのが印象的です。自分の想いを伝えることは大切であるということを感じる時間になりました。

グループワークを通して「～してあげる」ではなく「一緒に～する」関係を築くことが大切であると学びました。活動中やプログラムではどうしても「メンバーを楽しませてあげよう」「困ってるから助けてあげよう」など、「～してあげよう」と一方的になりがちです。しかし、それはリーダーの自己満足と紙一重であるとわかり、メンバーが本当に求めていることではないことに気付きました。「一緒に～する」という想いを意識することで、メンバーとの関係はもちろん、リーダーとの関係づくりにも大きく影響することにも気付くことが出来ました。メンバーと向き合うこととリーダーと向き合うことには通じるものが多いことをフォーラムに参加し、身をもって感じました。

フォーラムを終えて

活動をしていると様々な気持ちが生まれます。メンバーに対してはもちろん、一緒に活動を行うリーダーに対しても「楽しいな」という前向きな気持ちを常に持てるわけではありません。時には「自分だったらこうしたい」「それは違うのではないか」といった衝突する気持ちも抱きます。今まではそういった気持ちから逃げてきましたが、このフォーラムで、そういった気持ちを持つことは改善のチャンスであり、向き合うことが大切であることに気付きました。自分と同じ人は誰一人いないからこそ、自分の考えを言葉にし、想いを共有することを大切にしていきたいと思います。

3日間という短い時間で、初めて出会い、集まったグループのように感じないほど仲は深まり、フォーラムから2か月ほどたった今でも連絡を取り合っています。どのYMCAのリーダーも真っ直ぐで熱い想いを持った素敵なリーダーであり、沢山の刺激を受けました。そのような仲間が、海を渡り他県にも出来たこのフォーラムに参加させていただけたことは、私の人生にとって、大きな経験になりました。

今回のフォーラムで感じた想いや、学び得たことを共に活動するリーダーに伝え、今後の活動を更に充実したもの出来るよう努力していきたいと思えます。



写真上：山中湖で得た得難い仲間たちと



写真上：札幌クラブ10月例会でフォーラムの報告スピーチをするキスケリーダーとボムリーダー
左端は秋葉北海道YMCA総主事、右端は宮崎札幌クラブ会長

第29回東日本ユースボランティアリーダーズフォーラム報告

北海道 YMCA ユースボランティアリーダー(ポムリーダー) 国仲 真緒 (藤女子大学 1年)

9月9日～11日に東京 YMCA 山中湖センターで、「第29回東日本ユースボランティアリーダーズフォーラム」が開催されました。

テーマは「今、リーダーに求められること」で3日間グループの仲間と語り合いました。

関わること・遊ぶこと・悩むこと

今回の基調講演は、以前に YMCA のリーダーをされていた青山鉄兵さんが、「関わること・遊ぶこと・悩むこと」の3つの項目に分け、講演していただきました。YMCA の活動は、あくまでも「人との関わり」が根底にあり、自然体験はその「人との関わり」の手段に過ぎないことや「遊び」とは何か、活動を続けていく中で「悩み」を持ちつつも前に進むことが大切であること、を語られていました。

青山さんの講演では、自分が大切だと思っていたことが YMCA が大切にしていることと、中心がずれていたり、普通だと思っていたことが普通ではなかったりと新しい発見の連続でした。



霊峰富士のふもとで3日間語り合いました。

グループで語り合っ

私たちのグループは、1日目は、普段活動する中で考えないような「YMCA での好きな瞬間」などから考え、意見を共有しました。初めはカウンセラー対リーダーの会話だったのですが、2日目以降からは、テーマについての話し合いに加えて、ビッグカヌーに乗ったり、キャンプファイヤーをしたりと話し合いとはまた違う方法の関わりもしていき、関係が深まり、段々とリーダー対リーダーの会話になっていきました。そうしていく中で、最終的に「関わり」が大切である、

という結論に至りました。具体的には①リーダー同士も関わりを深めることで活動にプラスの影響を与える②関係を築くことでグループのなかでのメンバーの成長を引き出すことができる③メンバーと向き合うことで、メンバーをより深く知ることができ、リーダーはそれを踏まえてメンバーと関わっていくために目標を持つことが必要である、という考えになりました。

これからに向けて

今回参加させていただいたフォーラムでは、他のリーダーと話し合う中で、自分の想いを知ることができ、自分とは異なった意見や考え方を聞き、新しい見方を吸収することができました。また、他県の YMCA での活動も知ることができ、新しい発見が本当にたくさんありました。

今までの活動では、プログラムに参加することで頭がいっぱいで、メンバーについて深く考えたり、グループの中でも気になるメンバーに目が行きがちで、メンバー全員と関係をつくることがおろそかになっていました。3日間「今、リーダーに求められること」について考えましたが、こんなにもあるテーマについて考えたことは、人生で初めてでした。その中で、活動をしていくうえで考えることはとても大切であること、自分の意見を「伝え」、他人の意見を「受け止める」、また「伝える」の交換が関わりを深めていくなかでも大切であることを強く感じました。

今後は、今回得た気づきを活かし、「考えること」と「関わること」を特に意識して活動していきたいと思えます。



写真左上：
富士は山中湖センターのシンボルです。

写真右上：
山中湖で得た素晴らしい仲間です。

写真左：
フォーラムに集まった全員の写真です。
各地のボランティアリーダーたちのほかに YMCA のスタッフ、大勢のワイズメンも集まり熱く語り合いました。



札幌ワイズメンズクラブ 2016年11月例会

日時：2016年11月15日（火） 18:30～20:30

会場：クラッセホテル札幌 2F 会議室

札幌市中央区南1条西7丁目1-2

Tel. 011-281-3800

例会会費： 1,200円

プログラム

18:30 各自食事

19:00 司会 秋葉 聡志

① 開会点鐘 札幌クラブ会長 宮崎 善昭

② ワイズソング、ワイズの信条 全員

③ 聖句 柳沼 慈子

④ 会長あいさつ 会長 宮崎 善昭

⑤ 誕生日

11月16日 柳沼慈子会員

結婚記念日 なし

⑦ 卓話

アジアの国で見たこと、聞いたこと、学んだこと

——カンボジャ修学旅行報告——



北星学園女子中学高等学校

英語科教諭 黒岩 萌実先生

3年 久保田梨予さん 美山愛莉さん

⑧ 諸報告

⑨ YMCA 報告

YMCA 担当主事

佐藤 雅一

⑩ 今月の歌

「庭の千草」

⑪ 閉会点鐘 会長 宮崎 善昭



札幌ワイズメンズクラブ 10月例会

日時：2016年10月20日(木) 18:30～20:30

場所：クラッセホテル札幌 2F 会議室

出席者：秋葉、佐藤、柴田、中田千、中田靖、
宮崎、安田

ビジター：山本雅之（北海道部部长）

ゲスト：舟木沙起さん、国仲真緒さん

計 9名

いろいろ行事が重なり、予定より少ない例会になりましたが、山本雅之北海道部部长（十勝）の訪問と川中湖のYVLFに参加した舟木沙起さん、国仲真緒さんの参加で充実した例会になりました。舟木さんと国仲さんはパワーポイントを駆使して山中湖のフォーラムで得たこと、今後のボランティアに対する決意などを力強く語ってくれました。（p.2～p.3参照。）

山本部長も今後の北海道部の運営、活動方針を語られました。例会終了後、席を1階の居酒屋「ひだまり亭」に移し、秋の夜長が更けるまで呑みかつ語り合いました。



写真上： 前列左から、山本北海道部長、国仲さん、
船田さん、宮崎会長
後列左から、佐藤、秋葉、安田、中田千

札幌クラブ 10月事務会

日時：2016年10月25日(火) 19:00～20:00

場所：北海道YMCA総主事室

出席者：秋葉、佐藤、柴田、中田千、宮崎

1. 11月例会準備、確認
2. 11月3日YMCAオープンセミナー
3. 北海道YMCA120周年準備、打ち合わせー

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかる
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。

何故この聖句を！ 柳沼 慈子

なんと恐ろしい聖句でしょう！ この章の前の方に大きく1として「すべての人は罪人である」と言っているのですが、どんな罪を犯し、どんな悪行を行うとさばきを受けるのでしょうか？」

また、善行とはどれ程の事が善行なのでしょうか？鶏の卵の話ではないのですが、善行が先か、悪行が先か、と心の混沌を感じずにはられません。